

III 特殊分類別（財別） 鉱工業生産及び生産者製品在庫の動き

（表5、表6）

1. 最終需要財

2年の県内最終需要財の生産は、消費財が増加し投資財が減少したため対前年比△3.7%と減少し、指数は106.7となった。また、在庫は投資財、消費財がともに増加したため、対前年比15.5%と2年連続増加し指数は121.8となった。

1-1 投資財

2年の県内投資財の生産は、資本財、建設財がともに減少したため、対前年比△6.3%と減少し、指数は117.2となった。また、在庫は資本財、建設財がともに増加したため、対前年比11.5%と2年連続増加し、指数は121.4となった。

1-1-1 資本財

2年の県内資本財の生産指数は123.6で、対前年比△3.8%と減少した。これは、切符自動販売機、化学機械等が減少したためである。四半期別に推移をみると、1～3月期119.5（対前期比3.9%減）と2期連続減少し、4～6月期125.8（同5.3%増）、7～9月期127.4（同1.3%増）、10～12月期は122.3（同4.0%減）と増減を繰り返した。

一方、在庫指数の年平均は133.3で、対前年比9.0%と2年連続増加した。これを四半期別にみると、1～3月期125.3（対前期比8.5%減）、4～6月期137.4（同9.7%増）、7～9月期135.4（同1.5%減）、10～12月期136.3（同0.7%増）と増減を繰り返した。

1-1-2 建設財

2年の県内建設財の生産指数は110.3で、対前年比△9.1%と減少した。これは、水門、アルミニウムドア等が減少したためである。四半期別に推移をみると、1～3月期110.2（対前期比7.3%減）、4～6月期112.1（同1.7%増）、7～9月期112.7（同0.5%増）、10～12月期106.6（同5.4%減）と増減を繰り返した。

一方、在庫指数の年平均は113.2で、対前年比13.7%と増加した。これを四半期別にみると、1～3月期104.7（対前期比1.6%増）、4～6月期106.4（同1.6%増）、7～9月期117.1（同10.1%増）、10～12月期125.4（同7.1%増）と6期連続して増加した。

1-2 消費財

2年の県内消費財の生産は、耐久消費財が減少し、非耐久消費財が増加したため、対前年比0.3%と2年連続増加し、指数は94.5となった。また、在庫は非耐久消費財、耐久消費財がともに増加したため、対前年比26.3%増と2年連続増加し、指数は122.8となった。

1-2-1 耐久消費財

2年の県内耐久消費財の生産指数は97.5で、対前年比△3.6%と減少した。これは、二輪自動車等が減少したためである。四半期別に推移をみると、1～3月期97.2（対前期比1.6%減）、4～6月期88.7（同8.7%減）と3期連続減少し、7～9月期108.8（同22.7%増）、10～12月期は98.7（同9.3%減）と増減を繰り返した。

一方、在庫指数の年平均は175.3で、対前年比29.4%と2年連続増加した。これを四半期別にみると、1～3月期（129.3（対前期比36.7%減）と減少し、4～6月期150.8（同16.6%増）、7～9月期195.6（同29.7%増）、10～12月期235.7（同20.5%増）と3期連続して増加した。

1-2-2 非耐久消費財

2年の県内非耐久消費財の生産指数は91.3で、対前年比5.3%と2年連続増加した。これは、医薬品、揮発油等が増加したためである。四半期別に推移をみると、1～3月期95.6（対前期比9.4%増）と2期連続増加し、4～6月期89.2（同6.7%減）、7～9月期は90.0（同6.7%減）、10～12月期90.9（同1.0%増）と増減を繰り返した。

一方、在庫指数の年平均は109.2で、対前年比25.1%と増加した。これを四半期別にみると、1～3月期101.1（対前期比13.2%増）と3期連続増加し、4～6月期100.3（同0.8%減）、7～9月期108.4（同8.1%増）、10～12月期122.4（同12.9%増）と増減を繰り返した。

2. 生産財

2年の県内生産財の生産は、鉱工業用生産財、その他用生産財ともに増加したため、対前年比3.3%と4年連続して増加し、指数は115.8となった。また、在庫も鉱工業用生産財、その他用生産財ともに増加したため、対前年比3.6%と2年連続増加し指数は105.8となった。

2-1 鉱工業用生産財

2年の県内鉱工業用生産財の生産指数は115.8で、対前年比2.9%と4年連続して増加した。これは、スピーカー、電磁クラッチ等が増加したためである。四半期別に推移をみると、1～3月期110.3（対前期比2.9%減）と減少し、4～6月期116.5（同5.6%増）、7～9月期117.5（同0.9%増）、10～12月期119.3（同1.5%増）と3期連続増加した。

一方、在庫指数の年平均は103.9で、対前年比3.2%と2年連続増加した。これを四半期別にみると、1～3月期105.8（対前期比2.8%減）と減少し、4～6月期106.2（同0.4%増）、7～9月期101.7（同4.2%減）、10～12月期101.5（同0.2%減）と増減を繰り返した。

2-2 その他用生産財

2年の県内その他用生産財の生産指数は114.8で、対前年比7.6%と2年連続増加した。これは、A重油、軽油等が増加したた

めである。四半期別に推移をみると、1～3月期111.1（対前期比4.1%減）、4～6月期110.1（同0.9%減）と2期連続減少し、7～9月期112.0（同1.7%増）、10～12月期126.1（同12.6%増）と2期連続して増加した。

一方、在庫指数の年平均は136.2で、対前年比9.5%と3年連続して増加した。これを四半期別にみると、1～3月期145.2（対前期比3.1%増）、4～6月期148.0（同1.9%増）と8期連続増加し、7～9月期110.5（同25.3%減）、10～12月期145.1（同31.3%増）と増減を繰り返した。

表5 特殊分類別鉱工業生産指数増減率

	対前年増減率				2年四半期別・対前期増減率(%)			
	62年	63年	元年	2年	1～3月期	4～6月期	7～9月期	10～12月期
鉱工業	1.3	3.6	6.1	△ 0.2	△ 2.6	2.6	2.3	△ 1.2
最終需要財	△ 0.9	3.6	7.5	△ 3.7	△ 2.5	△ 0.6	4.8	△ 4.4
投資財	3.4	6.8	9.6	△ 6.3	△ 6.1	3.9	1.2	△ 4.4
資本財	△ 0.8	7.1	13.6	△ 3.8	△ 3.9	5.3	1.3	△ 4.0
建設財	8.2	6.3	5.3	△ 9.1	△ 7.3	1.7	0.5	△ 5.4
消費財	6.2	△ 0.7	4.5	0.3	2.9	△ 7.2	10.4	△ 3.7
耐久消費財	△ 8.5	4.6	5.2	△ 3.6	△ 1.6	△ 8.7	22.7	△ 9.3
非耐久消費財	△ 3.5	△ 6.5	3.5	5.3	9.4	△ 6.7	0.9	1.0
生産財	3.5	3.5	4.7	3.3	2.9	5.3	0.8	2.2
鉱工業用生産財	3.7	3.8	4.6	2.9	△ 2.9	5.6	0.9	1.5
その他用生産財	0.3	△ 0.1	6.0	7.6	△ 4.1	△ 0.9	1.7	12.6

表6 特殊分類別鉱工業生産者製品在庫指数増減率

	対前年増減率				2年四半期別・対前期増減率(%)			
	62年	63年	元年	2年	1～3月期	4～6月期	7～9月期	10～12月期
鉱工業	△ 6.7	△ 4.7	11.7	7.4	△ 2.7	1.9	△ 2.1	4.4
最終需要財	△ 2.1	△ 9.4	8.1	15.5	2.9	3.5	7.9	7.5
投資財	△ 2.4	△ 5.4	10.8	11.5	2.6	2.6	5.3	5.1
資本財	4.8	△ 9.2	27.4	9.0	△ 8.5	9.7	△ 1.5	0.7
建設財	△ 6.9	△ 2.7	△ 0.3	13.7	1.6	1.6	10.1	7.1
消費財	△ 1.5	△ 18.3	1.2	26.3	△ 1.9	3.6	13.8	11.6
耐久消費財	△ 1.9	△ 36.7	36.5	29.4	△ 36.7	16.6	29.7	20.5
非耐久消費財	△ 1.3	△ 11.3	△ 8.4	25.1	13.2	△ 0.8	8.1	12.9
生産財	△ 8.9	△ 2.3	13.4	3.6	△ 2.6	1.1	△ 6.1	1.7
鉱工業用生産財	△ 8.9	△ 3.4	13.2	3.2	△ 2.8	0.4	△ 4.2	△ 0.2
その他用生産財	△ 8.9	15.0	16.1	9.5	3.1	1.9	△ 25.3	31.3